

仙台市太白山自然観察の森 情報誌2025年5月号

森のおくりもの 5

NO.404 The Gift from Woods

ウラシマソウ（サトイモ科）



可愛らしい花たちが迎えてくれる森の中に、不思議な花を咲かせる植物があります。黒っぽいゴム紐のような部分からはキノコバエをおびき寄せる匂いを出すと言われているウラシマソウです。謎めいた姿で人気のある植物ですが絶滅危惧種に指定している県もあり、将来、里山から姿を消してしまう恐れが、これを機に環境保全について考えてみませんか。【館長：佐藤由美】

森のことは

自然の様子やできごとを四字熟語やことわざなどに当てはめ、森で感じた言葉をお届けします

『猪突猛進（ちよとつもうしん）』

各地でイノシシによる農林被害に悩まされていますが、観察の森でも以前から起きていて、最近もひどい状況です。畑のように耕したり大きな穴を掘ったり立ち木を引っっこ抜くなど、前日にはなかったイノシシが荒らしたと思われる痕跡が一夜にして現れ驚きます。まさに「猪突猛進」だと感じました。「イノシシのように勢いよく突進することから、目標に向かって脇目も振らず、猛烈な勢いで突き進むこと」です。強そうだがむしゃらに目標を目指す感じが大相撲の横綱昇進伝達式の口上によさそうと思っていましたが、周囲の状況や他人のことを顧みずにただ突き進むと失敗や損害につながることも考えられるので、悪い意味合いで使われる言葉でした。周りの人や状況を考えずに突き進まれたら親方はたまったものではないので、口上には絶対に使われません。

実際の生態では、イノシシは臆病なので慎重に行動し、普段はあまり走らないようです。走るのは逃げるときで、直進だけでなくジグザグや急に曲がるなどの方向転換も得意です。猟で追われるなどして、怒って向って来る様子から猪突猛進のイメージになったのではないかとことです。

本当の猪突猛進は、温暖化による影響だと感じます。今シーズンの冬は、最近ではまあまあ寒い方だと思ったので、植物の開花時期が遅くなるのではと予想したのですが、毎年調べている開花調査で見ると、暖冬だった昨年とほぼ変わらない時期で推移しています。仙台の桜も平年より4日早い開花でした。一度早まると多少のことでは元には戻らず突き進むのでしょうか。温暖化や気候変動を止めるのは、大変難しいことだと思いました。イノシシの増加や分布域が広がったのも温暖化による影響が間接的にあると考えられているようです。

開花ラッシュの中で、被害を免れたもの、荒らされても頑張っているものを見て、自然の健気さに感心します。

【レンジャー：新田隆一】



5月の生物ごよみ

植物

ヤマツツジ

チゴユリ

ミヤマガマズミ

ヒメシヤガ

マルバダケブキ

サイハイラン

ギンリョウソウ

ネジキ

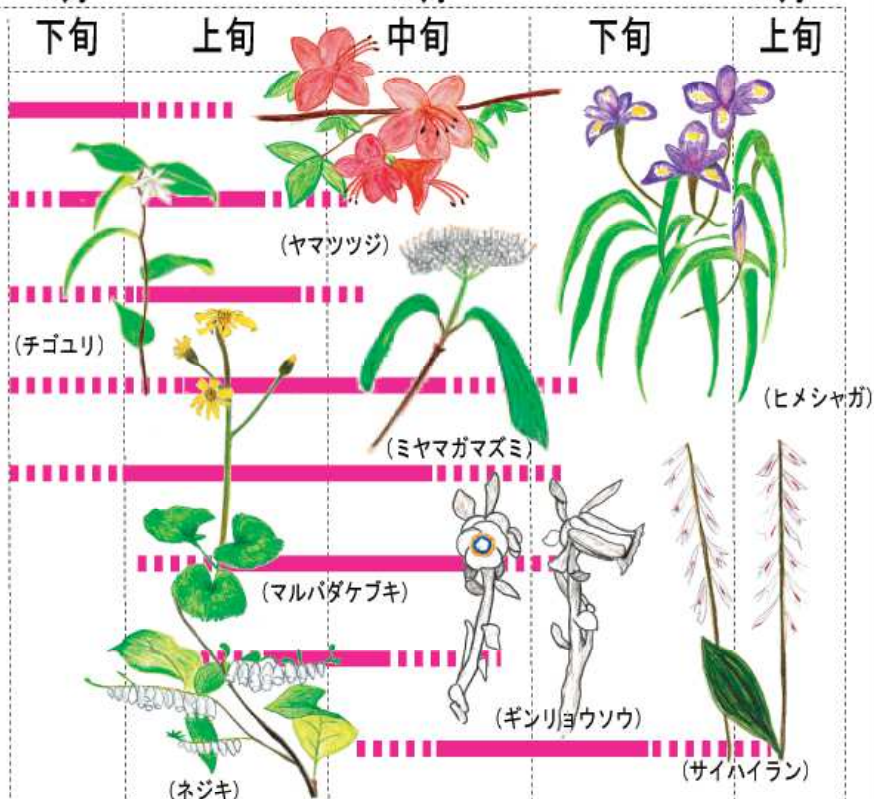
4月
下旬

上旬

5月
中旬

下旬

6月
上旬



ヒメギフチョウは3月30日に初見が確認され、4月17日に最後の羽化が確認されました。発生期を迎えてから数日寒さが続いたせいかトウゴクサイシンの裏をみてもほとんど卵を確認することが出来ませんでした。センターでは2021年から累代飼育を始めてヒメギフチョウの保護活動をしています。ヒメギフチョウの食草であるトウゴクサイシンを増やしたりいろいろ試みしていますが自然を相手だとなかなか思うようにはいきません。来年もたくさんのヒメギフチョウが舞う環境作りが出来るよう頑張っていきたいと思います。

【レンジャー：齋 正宏】

動物

シュレーゲルアオガエルがヨシの湿地で
鳴き始める

サンコウチョウがやってくる
(※夏鳥)

ホトギスが鳴き始める
(※夏鳥)

オトシブミがゆりかごを作る

4月
下旬

上旬

5月
中旬

下旬

6月
上旬



※夏鳥 春に東南アジアなどの越冬地から日本に渡ってきて繁殖し、秋には帰っていく鳥。
日本にいる期間は種類によって違うが、おもに3月～10月の間になる。

※累代飼育 飼育下で生まれた親個体を継続して繁殖させること。

森の「あれこれ」



「キュートな夏鳥」

初夏、子育てのために遠い南の国からやってくる夏鳥たちの季節が巡ってきました。オオルリ、キビタキ、サンコウチョウなど華やかな姿の人気者が多いのですが、今回の主役はコサメビタキです。



コサメビタキはスズメより少し小さいくらいの小鳥で、背中には暗褐色味のある灰色、おなかには白の一見地味な姿をしています。しかし派手な色彩はないものの水墨画のような繊細な美しさと、ハエなどの飛んでいる昆虫を巧みに空中で捕まえる様子は見ていてなかなかスリリング、その姿から英語で「Asian Brown Flycatcher」と呼ばれています。何よりもこの“つぶらな瞳”がたまりません。双眼鏡でそのまなざしに一目ぼれする人もいて（実は私もそのひとり）。また雄のさえずりの声がつぶやくような複雑で繊細に歌い（上の写真中はさえずりの姿）、これがまたまたキュート（個人の见解）です。明るい林を好み、子育てはおよそ二週間ほど。上の写真右は遠くからの撮影でしたが右が親、左の白斑の子が子どもです。



最後は巣だったばかりと思われる写真です。飛んでいる昆虫をとれずセンター近くでシャクガの幼虫らしきイモムシを自力で捕え食べていました。無事に育って来年も来てくれるでしょうか。

コサメビタキは観察の森でも比較的に多く探しやすい鳥だと思います。バードウィークでもあるこの時期、出会いの絶好のチャンスですよ。最後に一つだけお願いがあります。もし巣を見つけたら静かにその場を離れてあげましょう。

【レンジャー：木田秀幸】

森は生きている



1



① 緑のグラデーションが美しいウンモンズズメという蛾です、名前にスズメがつくのは、飛び回る姿が鳥のスズメに似ているということから名づけられました。② 青緑のメタリックが美しいクチブトゾウムシの仲間です。③ ミドリニリンソウと呼ばれたりもします、春に有名なニリンソウなのですが、なぜ色が変わるのか、変異などいろいろな説があります。④ 一瞬見ただけで、見逃しそうになります、樹の幹に擬態してるシャチホコガです。

2



3



4



春になってから、毎日次から次へと花や生き物たちが様変わりしています、見たことがないものが出現し、覚えるのも一苦労ですが、今が一番自然の豊かさを感じる時期ではないでしょうか、街とは違う空気をみなさんも、たまには吸いにきてはいかがでしょうか。

【レンジャー：菅井 潤】

今日のイベント & お知らせ

◆『はじめてバードウォッチング 野鳥の歌も楽しもう』

- ・ 5月24日(土) 6:30 ~ 8:00 小学生以上 10名
- 【内 容】バードウォッチング初心者の方と早朝の森で野鳥の声に注目します
- 【申込み】5月16日(金) 必着でEメール、FAX、往復はがきにて(抽選)

◆『初夏の鉤取山ネイチャーウォーキング』

- ・ 5月24日(土) 10:00 ~ 15:00 小学生以上 20名
- 【内 容】自然について講師の解説を聞きながら鉤取山国有林を歩きます
- 【申込み】5月10日(土) 必着でEメール、FAX、往復はがきにて(抽選)

◆『おはよう野鳥かんさつ』

- ・ 6月14日(土) 6:30 ~ 8:00
- 【内 容】講師の解説を聞きながら野鳥を観察します
- ※ 当日開始時間前までにセンター前にお集まりください

◆『自然感さつ専科「クモウォッチング」』

- ・ 6月14日(土) 10:00 ~ 12:00 小学3年生以上 10名
- 【内 容】クモの体色や糸の美しさなどを感じて興味深いクモの魅力を楽しみます
- 【申込み】6月2日(月) 必着でEメール、FAX、往復はがきにて(抽選)

※申込み専用メールアドレス taihaku@sendai-park.or.jp 詳しくはQRコードを読み取り



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



毎週
日曜は

『ガイドウォーク』の日!

開催日: 4日, 11日, 18日, 25日

開催時間: 10:00~11:30 13:30~15:00

※時間までにセンター前へお集まりください

申し込み不要。飲み物、かっぱ、歩きやすい服装と靴で。

5月の休館日

7日、12日、19日

26日

※月曜日が祝祭日の場合、
翌日以降の平日が休館



宮城交通バスの場合

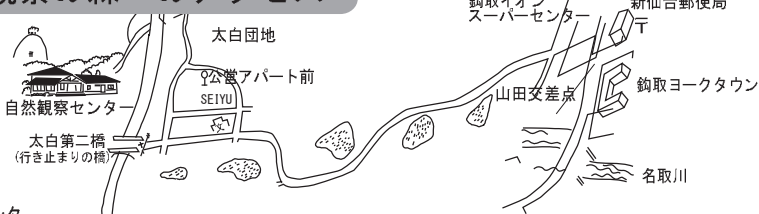
- ① 仙台駅 乗車時間 約40分
 - ② 長町駅東口 乗車時間 約30分
 - ③ 八木山動物公園駅 乗車時間 約10分
- 【行先】①②③ 「太白団地經由山田自由ヶ丘車庫行」乗車
(※③のみ乗車可「太白団地 山田自由ヶ丘經由山台南ニュータウン行」)
いずれも 公営アパート前 下車→ 徒歩15分



お車の場合

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。徒歩5分でセンター

観察の森へのアクセス



自然観察の森の最新情報、
「森のおくりもの」バックナンバーは
Webで!

「仙台市公園緑地協会」URL: <https://sendai-green-association.jp/green/taihakusan/>

2025年5月号

発行: (公財) 仙台市公園緑地協会

編集: 仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター
〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63

TEL: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133